

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

南米の日本人、日本の南米人： カレンダーによる授業に向けて

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中牧, 弘允 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4344

◆特別寄稿 1

南米の日本人、日本の南米人

—カレンダーによる授業に向けて—

はじめに

日本人の南米移住はペルーへは 1899 年、ブラジルへは 1908 年からはじまった。すでにハワイ、アメリカ、カナダへと移住していった日本人ではあったが、20 世紀初頭、同地域での移民制限政策のため、ペルーやブラジルへと行き先の変更を余儀なくされた。ペルーではもっぱら砂糖きび農園に、ブラジルでは主にコーヒー農園に労働者として雇われていったのである。それは契約労働であったから、一時的な出稼ぎのつもりで渡航した人たちも多かった。

時うつり、それから一世紀。この間、日本人の海外移住は 1960 年代の高度成長とともに下火となり、細々と続いていた国策としての南米移住も 1993 年に打ち切られた。ところが逆に、1990 年の入管法の改正により、日系南米人などが正式に「定住者」「日本人の配偶者等」および「永住者の配偶者等」として入国が許されるようになった。そのため日系ブラジル人を中心に、ラテンアメリカからデカセギとよばれる雇用労働に従事する人びとが増加したのである。

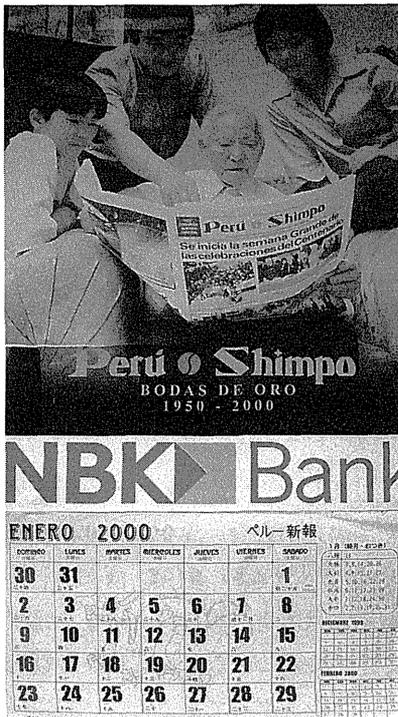
世紀にまたがるこのコントラストをどう授業したらいいのだろうか。まず言えることは、日本における多文化教育、国際理解教育、異文化理解教育などの分野において「南米の日本人（日系人）」と「日本の（日系）南米人」が格好の素材を提供しようという点である。それは本書の趣旨にもかなうはずである。そこで、「移民を授業する」としたら参考になるかもしれないひとつの素材を取り上げてみたいと思う。それはカレンダーである。

カレンダーはそもそも日にちを知るためのアイテムであるが、同時にさま

ざまな情報を発信するメディアでもある。暦日にも西暦（太陽暦）だけでなく、旧暦（太陰太陽暦）、イスラーム暦（太陰暦）、ユダヤ暦（太陰太陽暦）など文化的・宗教的多様性がみられる。そればかりか、宗教、企業、国家、地域、芸術など多様な文化が付帯情報として提供されている。切手がつまら国民文化を図案化しているのにたいし、カレンダーはそれ以外にも大衆文化や民俗文化、便利情報や商品広告など、雑多な情報を盛り込む媒体となっている。

そこで、まずは南米の日本人（日系人）が使っているカレンダーの観察からはじめよう。

1. ペルーの日系人向けカレンダー



【写真1】ペルー新報のカレンダー（2000）

最初に取り上げるのはペルー新報の発行した2000年のカレンダーである【写真1】。Perú Shimpoの下に「BODAS DE ORO(金婚式)1950-2000」とあるのは創刊50周年の意味である。ペルーのNBK BANK (NBK銀行) が広告を出している。ENEROとは1月のことである。曜日はスペイン語と日本語が併記され、日付はアラビア数字と漢字とで構成されている。漢字の日付は旧暦であり、旧二十五とあるのは旧暦の25日をさしている。2000年の1月1日は旧暦では11月25日にあたる。赤字は祝日の意で、AÑO NUEVOとは新年のことである。だが、日本では明治6(1873)年に廃止された旧暦がなぜのっているのだろうか(問い1)。よくみると、日付のバックには薄い赤のイ

ラストで龍が描かれている。このことから辰年であることがわかる。また六輝がのっている【写真2】。六輝は六曜のことである。六曜はいまでも結婚式や葬式のときの目安となっているが、たとえば1月（睦月・むつき）の大安は1日、12日、18日、24日、30日であることがわかる。だが、6日が仏滅で、7日が大安をぬかして赤口となっているのはなぜか（問い2）。右下隅の DICIEMBRE と FEBRERO はそれぞれ12月と2月のことであり、1月の前後2ヵ月の日付がわかって便利である。左下には祝日や行事が日本語で記載されている。1月から順に印刷されたとおりに、できるだけ忠実に紹介していこう。

1月（睦月・むつき）	
六輝	日
先勝	3, 8, 14, 20, 26
友引	4, 9, 15, 21, 27
先負	5, 10, 16, 22, 28
仏滅	6, 11, 17, 23, 29
大安	1, 12, 18, 24, 30
赤口	2, 7, 13, 19, 25, 31

【写真2】六輝（2000年1月）

- 1月 <旗日マーク（以下、旗）>元日…1日、旧12月1日…7日
- 2月 節分…3日、旧元日…5日、聖バレンタインデー…14日
- 3月 ひな祭…3日、旧2月1日…6日、彼岸入り…17日、彼岸中日…20日、彼岸明け…23日
- 4月 日系移民・秘日友好の日…3日、旧3月1日…5日、<旗>聖木曜日…20日、<旗>聖金曜日…21日、<旗>復活祭23日、秘書の日…26日
- 5月 <旗>メーデー…1日、旧4月1日…4日、子どもの日…5日、母の日…14日
- 6月 旧5月1日…2日、国旗の日…7日、父の日…18日、農夫の日…24日、<旗>聖ペドロと聖パブロの日／漁夫の日…29日
- 7月 ペルー新報創刊50周年祭…

AGOSTO 2000							ペルー新報
DOMINGO 日曜日	LUNES 月曜日	MARTES 火曜日	MIÉRCOLES 水曜日	JUEVES 木曜日	VIERNES 金曜日	SABADO 土曜日	
		1 二	2 三	3 四	4 五	5 六	
6 七	7 八	8 九	9 十	10 十一	11 十二	12 十三	
13 十四	14 十五	15 十六	16 十七	17 十八	18 十九	19 二十	
20 二十一	21 二十二	22 二十三	23 二十四	24 二十五	25 二十六	26 二十七	
27 二十八	28 二十九	29 旧八月	30 二	31 三			

●8月 11日(金)は祝日、12日(土)は祝日、13日(日)は祝日、14日(月)は祝日、15日(火)は祝日、16日(水)は祝日、17日(木)は祝日、18日(金)は祝日、19日(土)は祝日、20日(日)は祝日、21日(月)は祝日、22日(火)は祝日、23日(水)は祝日、24日(木)は祝日、25日(金)は祝日、26日(土)は祝日、27日(日)は祝日、28日(月)は祝日、29日(火)は祝日、30日(水)は祝日、31日(木)は祝日

【写真3】2000年8月

- 1日、旧6月1日…2日、教師の日…6日、七夕…7日、ぼん迎え火…13日。
ぼん…15日、ぼん送り火…16日、〈旗〉独立祭…28～29日、旧7月1日…31日
- 8月 旧七夕…6日、ウンケー（旧暦7月13日）…12日、旧ぼん…14日、ウクイ（旧暦7月15日）…14日*、（日本）終戦記念日…15日、旧8月1日…29日、〈旗〉聖女ロサの日…30日
- 9月 彼岸入り…20日、彼岸中日…23日、彼岸明け…26日、ペルーの春の日…23日、旧9月1日…28日
- 10月 記者の日…1日、〈旗〉アンガモスの海戦記念日…8日、奇跡のイエス…18日、旧10月1日…27日、クリオーヨの日…31日
- 11月 〈旗〉諸聖人の日…1日、故人の日…2日、旧11月1日…26日
- 12月 〈旗〉受胎告知…8日、〈旗〉クリスマス…25日、大晦日…31日

*（旧）タナバタ、ウンケー、ウクイは沖縄の習慣。地方によって日にちが違うことがあります【写真3】。

ここに掲載された祝日や行事は次の7つに分類される。

- ①ペルーの国家が制定した祝日 ②キリスト教の祝祭日
③日系移民全体にとっての祝祭日 ④日本の祝祭日
⑤沖縄の祝祭日 ⑥ペルー新報にとって特別の日
⑦旧暦の朔日

そのそれぞれについて教師が説明することもできるし、生徒の調べ学習にまわすこともできよう。ただ、日本人・日系人にとって特徴的なことは、第1に日系移民・秘日（ペルー - 日本）友好の日として4月3日がもうけられていることである。これは1899年4月3日に790名の移民を乗せた佐倉丸がカヤオ港に到着した日に由来する。この日を中心に日系社会ではさまざまな記念行事がくりひろげられるのだろう。第2の特徴としては、節分、彼岸、七夕、盆など、日本でも一般的な行事に加え、沖縄の行事を特記していることである。しかもそれは旧暦でおこなわれ、地方によって日程にちがいがみられるようだ。たとえば、七夕に西暦の7月7日と旧暦の7月7日が2つあるように、盆行事にも西暦と旧暦にもとづくものがあり、沖縄など南西諸島

の出身者とそれ以外の人びととのあいだに習慣の相違があることを示唆している。

旧暦は明治の初頭に廃止されたが、現実には東京を中心とする都会から徐々に浸透がはかられ、農山漁村部では終戦直後まで旧暦行事は結構のこっていた。また月遅れの行事が案出され、東京だけは旧暦7月の盆行事を律儀に西暦7月におこなっているが、それ以外では西暦8月にずらしている。また、奄美・沖縄地方では旧暦行事、とくに旧盆がさかんなことは民俗学ではよく知られている。したがって、旧暦の併記されたこのカレンダーからペルーへの移住者に沖縄系出身者がおおいことが推定される。問い1の回答はこのあたりにある。

問い2については六曜のルールを示せば十分である。つまり、六曜は先勝→友引→先負→仏滅→大安→赤口の順でくりかえされるが、月が変わると1日が、正月・7月は先勝、2月・8月は友引、(以下、略)、6月・12月は赤口という順番で変更になる。ただし、注意を要するのは、それが旧暦でおこなわれる点である。西暦1月7日は旧暦12月1日なので、赤口というわけである。六曜にも旧暦が紛れ込んでいることが、ここでのポイントである。

さて、カレンダーは暦日を知るためだけではないと先に述べた。このカレンダーの写真もそのことを如実に物語っている。中央にはペルー新報を読む老人が座っている。しかも新聞のトップ記事は日本語ではなくスペイン語で *Se inicia la semana Grande de las celebraciones del Centenario* (百年祭の祝賀行事の大週間がはじまった) という見出しがおどっている。ペルーと日本の国旗を先頭にした行列の写真もみえる。1999年は日本人のペルー移住100周年を盛大に祝った記念すべき年だった。2000年のペルー新報発行のカレンダーをPRするのにこれほどふさわしい記事はないだろう。

次の問題はこの老人はいったい何者かということである。そして彼をかこむ3人も。実は、わたしはたまたまこの長老にインタビューしたことがあり、この顔ぶれを知っている¹⁾。新聞を指さしているのは老人の息子で、左右の少年と少女は彼の子どもたちである。つまり三世代がこの写真にはおさまっている。その構図もまた100年を象徴するにふさわしい。しかも、未来につながっている。子どもたちがそれを暗示している。

中央の人物は伊芸銀勇^{いげいぎんゆう}氏である。彼は教育者であり、1934年にチャンカイ小学校の教頭として赴任し、1937年には南光学園の校長をつとめ、伊芸学園という家庭塾を3年半ほど経営していたこともある。戦争で日本の教科書が入手できなかった時代、それをモデルに、ガリ版刷りでペルーの日本人子弟のために教科書を作成したこともある。小柄な体軀にもかかわらず覇気があり、老年にもめげず全身にエネルギーがみなぎっていた。くわえて沖縄県人（ウチナーンチュ）としての誇りも身につけていた。1990年の第1回世界ウチナーンチュ大会（於沖縄）のときの乾杯をしたこともあるという。伊芸氏はウチナーンチュの代表的人物の一人でもあったのだ。ちなみに、伊芸家の応接間で撮影されたカレンダーの写真には紅型を着た踊り子の人形もうつっている。

このように、一点のカレンダーから暦日とは直接関係のないさまざまなことが読み取れる。そうした作業を重ねることで、一つの研究分野がひらけていく²⁾。それもまた教育に活かすことができるだろう。

2. ブラジルの日系人向けカレンダー

日伯司牧協会が2008年のブラジル移民100周年に向けて2006年にカレンダーを発行した【写真4】。サンパウロの東洋人街リベルダージ区のある商店では13リアル（約780円）で販売していた。セピア色の写真はブラジル日本移民史料館からの借用であり、開拓の時代に焦点を合わせたメッセージが日本語とポルトガル語で発信されている。レオナルド・マツオ日伯司牧協会会長は作成の趣旨を次のように記している。

ブラジルへの日本移民百年（2008年）に先立って、今年は古い写真を見ながら、年間を通じてブラジルへの移民の旅を追って見たいと思います。コーヒー農園での労働、原始林の伐採、植民地、学校、……などなど。私たちの先駆者たちの歴史に基づきながら、各頁に聖書の言葉を日伯両語で掲げました。

どの教団も、どの日系団体も、この1点を除き移民100周年を記念したカ

レンダーを発行していなかったもので、とくに目立ったし、評判も良かった。

まず、暦日部分の特徴をみてみよう。月名と曜日はポルトガル語であるが、月齢が4通り—新月・上弦・満月・下弦—表示されている。ペルーのカレンダーには旧暦がのっていたので、1日は新月、15日は満月というように、すべて月齢が読み取れるのに対し、ここには4つのマークしかない。これはブラジルのカレンダー一般にも通じている。つまり、太陰暦そのものの併記はないが、新月・上弦・満月・下弦をしめすマークのついたカレンダーはおおい。それはなぜか（→問い3）。ブラジルで

も釣り人にとって、新月と満月は不可欠の情報である。また、縁起をかついで、満ちていく月のときに髪を切ったり、貯金をしたり、商売をはじめたりするような習慣が存在する。アフロ・ブラジリアン宗教の儀礼でも、満月に向かう白分（はくぶん）に生まれた子どもは男っぽいとか、月が細くなっていく黒分（こくぶん）はエシュ³⁾が跋扈し悪事がはびこるなどといわれている。

暦日部分の下段には祝祭日も記されている。1月から順にリストアップしてみよう。

- 1月 1元旦 神の母マリア 世界平和の日 2主の公現 9主の洗礼
 2月 2主の奉献 6日本二十六聖人 11世界病者の日 28謝肉祭
 3月 1灰の水曜日 四旬節兄弟愛運 19聖ヨゼフ
 4月 9枝の主日 13聖木曜日 14聖金曜日 15聖土曜日 16主の復活 21
 チラデンテス



【写真4】日伯司牧協会のカレンダー（2006）

- 5月 1 労働者聖ヨゼフ 4 神のお告げ 28 主の昇天 31 聖母の訪問
 6月 3 聖母の汚れなき御心 4 聖霊降臨 11 三位一体 15 聖体の祝日 18 移民の日 23 イエスの御心
 7月 2 聖ペトロと聖パウロ 26 祖父母の日
 8月 4 司祭の日 6 主のご変容 13 父の日 20 聖母被昇天 27 日伯司牧協会の日
 9月 7 ブラジル独立記念日 8 聖マリア誕生 26 聖書の日 27 敬老の日
 10月 7 ロザリオの聖母 12 アパレシーダの聖母 子供の日 20 世界宣教の日 27 世界平和祈願
 11月 2 死者の日 5 諸聖人の日 15 ブラジル共和国宣言 26 王たるキリスト
 12月 3 待降節第一主日 8 無原罪の聖母 12 グアダルベの聖母 25 主の降誕 31 聖家族

ここに掲載された祝日や行事は次の4つに分類される。

- ①ブラジルの国家が制定した祝日 ②キリスト教の祝祭日
 ③日系移民全体にとっての祝祭日 ④日伯司牧協会にとって特別の日

先に見たペルーのカレンダーとは異なり、ここには日本の祝祭日も沖縄のそれも印刷されていない。カトリック教会の発行であるから、当然と言ってしまうまでもなく、カトリックの行事に重きがおかれている。言うまでもなく、ブラジルはポルトガルの植民地として発展し、人口の大多数はカトリック教徒である。日本人移民も二世が誕生するとカトリックの洗礼を受けさせるものが多かった。

そして、このカレンダーの最大の特徴は、月を追うごとに移民の歴史をたどれるように写真と解説がデザインされ、さらに聖句が添えられていることである。日本人移民史と聖書を対応させることによって、歴史体験の宗教的理解をねらっていることがうかがえる。ブラジル移住が宗教的レトリックで再解釈されているのである。それをすべて掲載しておこう。

- 1月 1908年6月18日、笠戸丸は最初の移民781名と共にサントスに入港した。長い2カ月の航海中、単調な生活の中で子供たちの初等教育も行われた。

下船してから車でサン・パウロの移民収容所に向かい、そこでコーヒー農園への配耕を待った。

【聖句】あなたは生まれた故郷を離れて私が示す地に行きなさい（創世記 12:1）。

2月 短期に財を成して、故郷に錦を飾るという最初の夢はコーヒー農園での苛酷な労働の中で次第に消えて行った。

【聖句】広々とした素晴らしい土地 乳と蜜の流れる土地に導く（出エジプト 3: 8）。

3月 原始林を切り開く時期。米、その他の生産の準備に取りかかった時期です。

【聖句】私が命じる土地に滞在しなさい。私はあなたと共にいてあなたを祝福する（創世記 26: 3）。

4月 植民地を建設することは、厳しい現実に対する移民の配慮の一つです。切り株や焼き残りの木々の間に植え付けが行なわれ、集落がつくられていった。

【聖句】あなたたちは、その土地を得て、そこに住みなさい（民数記 33: 53）。

5月 綿の収穫期には雪が地面を覆ったかに見えた。ある時期には、サン・パウロで生産される綿の半分は日本人の植民地が占めていた。

【聖句】あなたたちは、我々をこの荒れ野に連れ出し飢え死にさせようとするのか？（出エジプト 16: 3）

6月 新しい家庭が生まれる。結婚式は教会でなくても、花嫁は白い花嫁衣装で晴れの門出を飾った。

【聖句】わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国 奴隷の家から導き出した神である（出エジプト 20: 2）。

7月 陸上競技は、移民当初から広く普及していた。練習を行うためには簡単な広場で十分で、高い投資を要しなかった。

【聖句】六年の間自分の土地に種を蒔き、産物を取り 七年目には、それを休ませなさい（出エジプト 23: 10）。

8月 相撲は神々や、豪傑の競技と言われている。このスポーツは祖国との絆を培うものであった。

【聖句】神の霊が下ると、荒野は園となる（イザヤ 32: 15）。

9月 正装して植民地の会館（日本語学校）で天皇誕生日を祝った。

【聖句】 涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる（詩篇 126: 5）。

10月 移動映画は、日本移民にとって大きな楽しみを与え、故郷を懐かしんだ。

【聖句】 種は、良い土地に落ち、あるものは百倍、あるものは六〇倍、あるものは三〇倍の実を結ぶ（マタイ 13: 8）。

11月 日本人は皇室を尊び、皇室もブラジルの移民を心にとめ、皇太子（現天皇陛下）ご夫妻のご訪問をいただいた。感激の一時！

【聖句】 わたしは戦いを立派に戦い抜き、信仰を守り抜いた（第二テモテ 4: 7）。

12月 この土地は「植えれば何でもできる」。キャベツ、ジャガイモ、バナナ、平和も兄弟愛も……住み良いところだ！

【聖句】 私の造る新しい天と新しい地が私の前に永く続くように（イザヤ 66: 22）。

このように、日本人移民のブラジル移住、コーヒー農園での被雇用労働、みずからの力による植民地の建設、綿の収穫、新しい家庭のいとなみ、スポーツ、日本人会館や日本語学校の設立、天皇誕生日の祝賀会、映画や皇族訪伯による日本との絆の確認などのトピックが歴史的系列でならば、移住先の讚美で締めくくられる。古いセピア色の写真によって喚起される追憶のイメージ、移民史の流れ、そしてそれを聖句とむすびつけて記憶させる製作者の意図がうかがわれる。移民史の解説に宗教色はなく、皇室へのおもいを含め、ひろく移住者一般の心情と通じるものがある。しかし、聖句を引用することにより、移住体験に聖なる意味が付与され、定住に祝福があたえられている。いかにもカトリック教会が日本人・日系人向けに発行したメディアとしてのカレンダーではないか。

3. 日本の南米人向けカレンダー

在日南米人向けの引越し業者としては大手のシーズンが無料配布のカレンダーを2005年から発行している【写真5】。無料とはいっても、一枚物が多いポルトガル語のカレンダーのなかでは、元手がかかっている。A4サイズの月ごとの紙が12枚ついているし、紙質もすべすべして上等である。

暦日の表示には次のような特徴がみられる【写真6】。

- ①当該月の前後の月が小さくのっている。この点は、ペルー新報のカレンダーと同様である。
- ②日本の祝日にのみ数字が赤で印刷されている。
- ③ブラジルの祝日はカーニバル、イースター、独立記念日のように印字されている。しかし、数字は黒のまま、赤ではない。在日ブラジル人向けの一枚物カレンダーではふつう日本とブラジルの祝日が色分けされている⁴⁾。
- ④日ごとの欄にメモが書き込めるようになっている。これも普通の一枚物カレンダーにはない贅沢な特徴である。



【写真5】
スーザンのカレンダー（2005）

- ⑤月名、曜日名が英語である。通常のブラジル人向けカレンダーはすべてポルトガル語であるのに対し、きわめて特異である。カレンダーの収集調査を一緒におこなったアンジェロ・イシ氏によると、デザイナーは英語は「ユニバーサル」な言語であるというが、イシ氏自身は「おしゃれ」「格好良さ」「高級感」をかもしだす戦略と推測している（イシ, 2008: 53）。



【写真6】日付（2005年1月）

次に宣伝と便利情報のほうに目を転じると、以下のような特質が認められる【写真7】。

- ①上段左側はスーザン（SUZAN）の宣伝であり、ブラジルへの引越し（MUDANÇAS PARA O BRASIL）が業種であることがわかる。右側にフリーダイヤルとホームページ



【写真7】宣伝と便利情報

ジがのっている。

- ② 下段左は日本地図で、県別の境界と地方別の色分けがなされている。文字はポルトガル語とローマ字である。
- ③ 下段右の上半分は群馬、静岡、愛知、長野、ブラジルの倉庫の写真的のっている。
- ④ 下段右の下半分は便利な電話番号一覧である。五つのカテゴリーに分かれ、それぞれ主要な連絡先が掲載されている。在日ブラジル人にとってどういふところが大切な連絡先なのだろうか (→問4)。

a. 便利な電話

ア 警察 イ 警察／逸失物係 ウ 消防／救急車 エ 日本ヘルプライン オ 電話敷設 カ 気象情報 キ IPC テレビ・ジャーナリズム

b. インフォメーション

ア 病院情報 イ フライト情報－成田 ウ フライト情報－羽田 エ フライト情報－大阪

c. 出入国管理 - 空港

ア 本部 イ 東京インフォメーションセンター

d. ブラジル政府

ア 東京ブラジル領事館 イ 名古屋ブラジル領事館 ウ ブラジル大使館

e. その他

ア ブラジル人連盟 イ LAL－心理療法相談 (ポルトガル語) ウ アルコ
ホーリクス・アノニマス (英語) エ 健康相談 オ 録音－健康 (ポルトガル語)

f. 録音－SABJA (在日ブラジル人支援活動)

表紙と裏表紙はスーザンの宣伝用で、住所や電話番号などが載っている。また裏表紙の反対側には1年分の暦日がまとめておさめられている。

以上、スーザンのカレンダーが提供する情報のかなり細かいところまで記述してきたが、それが作成される過程にまでイシ氏による調査が及んでいるので、若干紹介しておきたい (イシ, 2008: 51-53)。実際、社長に話を聞いた

とき、マーケティングをして製作に取り組んだことをしきりに強調していた。具体的には、ブラジル人が住むアパートはブラジルに比べると狭いので小型カレンダーが良いと判断したり、ダイレクトメールにあわせてA4サイズを心がけたりしたことがあげられる。地図や電話番号一覧にも工夫のあとがみられる。また、スーザンは駐日ブラジル領事館がおこなう移動領事館にも同行して営業活動をしているが、そのときカレンダーを無料で差し出すと話のきっかけがつかみやすいという。元手はかかっているが、元はとっているのである。現に、2005年には1500部の印刷だけだったが、翌年は日付のみを差し替えて5000部にまで増やしている。それでも足りないほど好評だったという。

日本で生活するデカセギのブラジル人はポルトガル語（一部は英語とローマ字）のカレンダーの支援を受けている。このことが彼ら・彼女らの現時点における立場を象徴的にあらわしている。歴史はカレンダーにも何らかの形で反映され、たとえば日本語が使用されはじめるときは、あたらしい段階に入ったとみてよいだろう。そしてかならずや電話一覧にも変化がみられるにちがいない。

おわりに

以上、南米への日本人移民に関する3点のカレンダーに即して解説と問いの作成をこころみた。一つのカレンダーから少なくともこれだけの情報が入手できるし、そこからさらなる情報の探索に着手することも可能である。「移民を授業する」とき、カレンダーが一つのきっかけを与えてくれることに、もはや疑念の余地はないだろう。たかがカレンダーと言うなかれ。「歴」に一つの枠組みを与えてきたのは、ほかならぬ「暦」だったのだから。

<注>

- 1) 2000年12月7日に伊芸銀勇氏の自宅で録画インタビューをおこなった。その録画の一部はJICA横浜海外移住資料館の常設展示で放映されている。
- 2) わたしはそれを考古学や考現学にならい、「考暦学」と称している。暦法のみなら

ず、その媒体としての書物やカレンダーをも考察する学問的意である。詳細は、中牧弘允 (2003, 2005, 2008a) を参照のこと。ブラジルのカレンダーについては中牧弘允 (2008b: 168-177) も参照されたい。

- 3) エシュとはアフリカ起源のトリックスターのような神格である。邪悪で非道德的ではあるが、同時に強力な呪力を秘めるといふ両義的性格をもつ。
- 4) 日本とブラジル、両国の祝日が記載されているが、このことは在日ブラジル人が両国にまたがって生活していることの証でもある。しかし、それはブラジルのカーニバルの日に日本でもカーニバルを祝うことを意味しない。むしろ、両国の祝祭日に関係なく労働に明け暮れているのが実態である。

<引用文献>

- アンジェロ・イシ (2008) 「もうひとつのエスニック・メディアー日系ブラジル人のカレンダー」『アジア遊学』106号 (特集: カレンダー文化)、勉誠出版。
- 中牧弘允 (2003) 「考暦学のすすめ」国際交流基金編『国際交流』99号 (特集: 考暦学ことはじめ)、第一法規出版。
- 中牧弘允 (2005) 「暦法と祝祭日の折り合いをめぐって」国立民族学博物館編『民博通信』109号 (特集: マルチな暦を生きるーカレンダーにみる在日外国人のくらしー)。
- 中牧弘允 (2008a) 「カレンダー文化の特集によせて」『アジア遊学』106号 (特集: カレンダー文化)、勉誠出版。
- 中牧弘允 (2008b) 「ブラジルの宗教カレンダーー日系宗教を中心にー」『アジア遊学』106号 (特集: カレンダー文化)、勉誠出版。

(中牧弘允)